

不整脈センターで 新たな左心耳閉鎖デバイスを用いた治療を実施

琉球大学病院不整脈センターでは、2026年7月、新たな左心耳閉鎖デバイスを用いた経皮的左心耳閉鎖術を実施しました。

心房細動と脳梗塞のリスク

心房細動は不整脈の一種で、心臓の中に血栓（血のかたまり）ができやすくなる病気です。特に、左心房にある「左心耳（さしんじ）」と呼ばれる部位には血栓ができやすく、その血栓が脳の血管に流れると脳梗塞を引き起こすことがあります。脳梗塞を予防するため、多くの患者さんは抗凝固薬（血液を固まりにくくする薬）による治療を受けていますが、出血のリスクなどから継続が難しい場合もあります。

経皮的左心耳閉鎖術とは

経皮的左心耳閉鎖術は、足の付け根などの血管から細い管（カテーテル）を挿入して左心耳を閉じる治療法です。血栓ができやすい左心耳を閉じることで、患者さんの脳梗塞リスク低減を目指します。この治療は、抗凝固薬の長期継続が難しい患者さんに対する新たな治療の選択肢として期待されています。

新たなデバイスの導入について

今回の治療では、**2025年**に国内で使用可能となった新たな左心耳閉鎖デバイスを使用しました。当院ではこれまでも経皮的左心耳閉鎖術を実施してきましたが、新たなデバイスの導入により、患者さん一人ひとりの心臓の形状や特徴に合わせた治療選択が可能となり、より幅広い症例への対応が期待されています。

今後に向けて

当院不整脈センターでは、薬による治療やカテーテル治療、経皮的左心耳閉鎖術などを組み合わせながら、心房細動患者さん一人ひとりに適した医療の提供に努めています。今後も最新の医療技術を活用し、地域医療の発展と患者さんの健康増進に貢献してまいります。